

## 第1回日田市中小企業振興推進会議委員発言記録（概要）

日 時：平成29年5月16日（火）14：00～

場 所：日田市役所4階 庁議室

### 【議題1 平成29年度中小企業振興施策について】

資料1「平成29年度日田市中小企業振興に係る事業一覧」により、事務局から説明。

#### （A委員）

- ・先日、日田玖珠地域産業振興センターを訪れたときに、一部、賞味期限が切れている商品があった。産業振興センターは地場産品を購入できる場所だと思っているので、商品の管理やPR等にもっと力を入れるように、市から指導していただきたい。

#### （委員長）

- ・では、日田市中小企業振興推進会議でこのような意見が出たことを伝えてほしい。
- ・市は分離・分割発注や下請取引の適正化などに取り組んでいるが、実際に現場では建設業関係の仕事はどんな状況か。

#### （B委員）

- ・仕事は充実していると感じている。

#### （委員長）

- ・県も市も、中小企業施策は充実してきている。問題はそれを使いこなしているかどうかだ。
- ・県の中小企業活性化条例推進委員会においても、「こんないい施策があるとは知らなかった。」との意見が出る。日田商工会議所も日田地区商工会の方々も一体となって、施策の周知や活用を図ってもらいたい。
- ・これらの施策が順調に執行されると日田市がよりよくなっていくと思う。
- ・日田市の中小企業に関する金融施策はどんな状況か。

#### （C委員）

- ・日田市の融資制度は充実していると思う。
- ・金融庁から、担保、保証に過度に依存しない融資に取り組むことや、経常運転資金については極力回収せずに、短期の融資で資金対応することといった指導もある中で、日田市の中小企業のみなさんには、資金が非常に円滑に流れている状況だと思う。
- ・独自に景気DI等を調査した結果、資金余剰と答えた企業も四半期前と比較すると増えているので、経済状況はよくなっている。

#### （委員長）

- ・日田市は特に、商工会議所、商工会、金融機関のネットワークがよいと感じる。
- ・問題は、中小企業の方々が、この経済状況がよいうちに、施策や支援機関をうまく活用して、経営改善や経営革新をいかに進めていけるかである。  
事業承継についても同じだと思うが、どんな状況か。

(D 委員)

- ・昨年度、実施した事業承継のアンケート調査のデータを掘り起こして、今年度は個別相談につなげていく。また、大分県事業引継ぎ支援センターと連携して、個別の案件に取り組む予定である。

(委員長)

- ・地元のかかりつけ医である商工会議所、商工会の経営指導員の個別巡回により、経営改善や事業承継の案件が解決へ向かうことが望ましい。その中で、複雑な問題や普段対応していないような問題が出てくれば、それぞれの専門機関をうまく活用して対応すればよい。
- ・条例を制定し、計画を策定し、そして今後、推進会議による進捗管理を行っていくという、マネジメントサイクルがうまく回り出してきたところだが、全国的にこの動きを推進している中小企業家同友会からご意見をいただきたい。

(E 委員)

- ・国の憲章があり、県の条例があって、そして日田市にも条例ができた。そして、このように計画や施策が具体的にあがってくるということを、非常に喜んでいる。
- ・例年6月を、条例の普及月間として勉強している。企業側としては、新卒採用を進めなければいけないということから、今は雇用問題にしばって活動している。

(委員長)

- ・雇用関係の施策についても、UIターン者の雇用促進等、手厚い支援があるので、ぜひ活用していただきたい。

(E 委員)

- ・昨年、日田材を使用した工事を施工した際に、日田材の普及啓発ということで補助をいただいたが、床や壁など目に見えるところだけが対象で、構造材に日田材を使用している対象にはならなかった。

(事務局)

- ・多くの人に日田材の良さをPRするために、不特定多数の人が出入りする店舗や公共的施設で、日田材が一目で分かるような工事を対象としている。

(E 委員)

- ・日田材をぜひ使用したいという施主の強い思いがあったので、できれば見えないところも含めて補助していただけると有り難かった。

(委員長)

- ・限られた財源を効果的・効率的に使おうとした場合には、どうしても見えるところに特化せざるをえなくなるのかもしれない。
- ・市内の木材関係はどんな状況か。

(F 委員)

- ・低金利の影響を受けて、住宅の着工件数は伸びており、製材業はよい状況である。

(C 委員)

- ・資料1の7ページに、小規模事業者の設備投資への支援ということで、補助限度額

200万円とあるが、これはどの事業にあたるのかお聞きしたい。

(事務局)

- ・資料1の6ページ「中小企業チャレンジサポート事業」にあたる。

(C委員)

- ・予算額が500万円ということは、限度額いっぱいの申請が来たら終わりという理解でよいのか。

(事務局)

- ・お見込みのとおり。今年度からの新規事業であり、今年度の状況をふまえて来年度へつなげていきたい。

(委員長)

- ・金融機関側からも、この補助事業に該当するような案件があれば、ぜひ活用を促してもらいたい。

(C委員)

- ・とてもよい支援の制度だと思うので、そうした相談があれば勧めていきたい。

## 【議題2 平成29年度中小企業訪問調査について】

資料2「平成29年度中小企業訪問調査について」により、事務局から説明。

(委員長)

- ・昨年の訪問件数は100社で、今年は50社ということだが、件数を減らした主な理由は何か。

(事務局)

- ・昨年、初めての試みで訪問調査をさせていただいたが、予定していたよりも1社あたりにかかる時間が長くなった。そこで、今年はデータ件数を多く収集することにより、じっくりと時間をかけて課題等を把握することに重点を置くこととした。さらに、今年はこれまでに市の施策を活用した事業者を重点的に訪問することとしており、その後のフォローアップも含めて、訪問調査の中身を充実させたいと考えている。

(委員長)

- ・市の施策を活用した事業者であれば、経営状況や市に対するいろいろな意見もお持ちだろうから期待ができそうだ。
- ・調査票のフォーマットは、昨年と同じものを使用することなので、継続性、比較可能性が確保できてよいと思う。
- ・補足で説明された「1,000社に対するアンケート調査」とはどういったものか。

(事務局)

- ・人口減少に伴う人手不足の問題や、ワーク・ライフ・バランスの促進に向けて、市内の雇用や労働環境の現状を把握するため、市の事業として郵送によるアンケート調査を実施することとしている。現在、調査項目や設問の内容について検討しているところ。

(委員長)

- ・積極的でよいと思う。地域に行くと、必ず雇用や人材不足の話が出るので、今回、調査するのは時宜を得ており、結果が楽しみだ。

### 【議題３ 中小企業振興推進会議のスケジュールについて】

資料３「平成２９年度日田市中小企業振興推進会議開催日程（案）」により、事務局から説明。

(委員長)

- ・今回の会議は、施策や調査等、今年度実施することをみなさんに知っていただき、活用してもらうのが主な目的であるが、いよいよ次回の８月の会議では、ＰＤＣＡサイクルが回りだす、「Check」の部分に入る。成果を見ながら、みなさんからいろいろな意見をいただき、その意見が次年度予算に反映されるという大事なところであり、この推進会議の活動の真価が問われるところとなるので、みなさんのご協力をお願いしたい。